

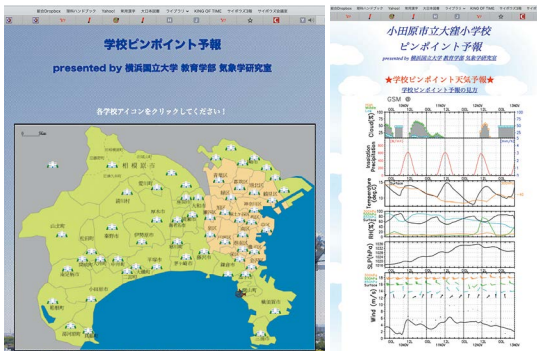
「学校ピンポイント予報」授業活用術

～毎朝天気の話でクラスを盛りあげたい先生へ～

筆保 弘徳 (横浜国立大学教育学部教授)

横浜国立大学教育学部気象学研究室は、これまで教育現場で利用・活用しやすい気象学教材を開発してきました。そのプロダクトの数々は研究室ホームページ¹⁾でご覧いただけます。本稿では、皆さんに「学校ピンポイント予報」(学校ピンポ)を、その特徴や授業活用術と合わせてご紹介したいと思います。

私たちは、気象庁が発表している天気予報データを用いて、神奈川県全ての学校約1500校(小・中・高校・特別支援学校)の地点において3日先までの気象予測データを毎朝配信するシステムを開発しました²⁾。学校の名前を冠した、その学校のためだけの天気予報です(特徴1)。



「学校ピンポイント予報」のページ

理科・算数の授業や朝の会での学校ピンポ活用術

学校ピンポの優れた点は、雲の種類で分けて雲量を示しているところです(特徴2)。普通の天気予報では天気や気温のみであるところ、学校ピンポは上層雲、中層雲、下層雲の存在率も発表しています。少し気象の専門知識が必要ですが、この雲データから、「上層の巻雲が空を100%カバー

しても、薄い雲なので地上に届く日射には影響しないので、天気もよい」や、「厚い下層雲が50%も出てくると、日射も減って気温も下がる」など、雲の出方とほかの気象要素のつながりを考察できます。現在の時刻の結果は「今の空の状況」を示しているのです。窓から見える雲でリアルタイムに検証することもできます。天気は毎日違うので、日課とした話題にすると盛り上がります。朝の会で「今日は午後1時から2時まで雨が降る」という話をする、子どもはその日一日がワクワクして過ごせるのではないのでしょうか。

学校ピンポのさらなる利点は数値データの配信です(特徴3)。使いやすいcsvデータでダウンロードできるようにしました。これを使って図を作ったり平均値を求めたりする活動もできます。

ほかの教科での学校ピンポ活用術

学校ピンポのページでは、空間的に広がりを持った情報も、リンクを張って配信しています(特徴4)。その中でも有用なのが、自然災害発生時の被災建物予測棟数を市区町村毎にリアルタイムで公開するウェブサイト「シーマップ」です³⁾。シーマップを使えば、日本のみならず、世界中の現在の時刻と天気情報を見ることができます。天気非表示にしてズームを最大にすれば、皆さんの学校や街の衛星写真や地形を調べられるので、地域学習や防災教育にも活用できます。最後の特徴5は、どなたでも気象学研究室と繋がれることです。今は神奈川県下だけの学校になっていますが、学校長等の許可さえいただければ、学校ピンポに追加して配信できます。また、もしも気象や天気のことでお困りであれば、ぜひ気象学教室にお問い合わせください。報酬?笑顔の児童と一緒に写る写真1枚、それが私へのご褒美なのです!

- 1) 横浜国立大学筆保研究室のホームページは、「筆保研究室」で検索してください。 <http://www.fudeyasu.ynu.ac.jp>
- 2) このシステムは、神奈川県下の教育委員会や校長会等々皆様のご快諾を得て、配信できるようになりました。
- 3) 横浜国立大学、あいおいニッセイ同和損害保険(株)、エーオングループジャパン(株)の産学共同研究によって開発されました。シーマップURL: <https://cmapp.dev/>